

# 大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)  
(生命理工医療科学先端研究特論)(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

## 記

1. 講師 東京大学大学院 医学系研究科  
病因・病理学専攻 免疫学講座  
教授 高柳 広 先生
2. 演題 骨免疫学と自己免疫
3. 日時 平成30年10月15日(月)17:30～19:30
4. 場所 M&Dタワー 2階 共用講義室 1
5. 抄録

骨代謝と免疫の境界領域である骨免疫学は、炎症性骨破壊疾患である関節リウマチの骨破壊の研究に端を発するが、骨髄における造血幹細胞の制御における骨構成細胞の研究などに幅広く発展しつつある (1)。

関節リウマチにおいては、炎症に伴う骨破壊は生体にとってメリットのない病的なプロセスのように見える。なぜ炎症で骨が壊れる必要があるのだろうか？この謎は簡単には解決できないが、最近、我々は、歯周病モデルを用いて「炎症性骨破壊の起源が、歯を脱落させ感染を収束させる」という生体防御機構の一貫であることを示す知見をえたので紹介する (2)。

さらに、自己を規定する胸腺髄質における組織抗原誘導機構と胸腺皮質における胸腺プロテアソーム変異と自己免疫についても述べる (3)。

- (1) Okamoto et al. *Physiol Rev.* 97:1295–1349 (2017)
- (2) Tsukasaki et al. *Nat Commun.* 16;9(1):701(2018)
- (3) Nitta et al. *Science Immunology* 2: eaan5165 (2017)

連絡先： 中島 友紀 (分子情報伝達学分野 内線5472)